

巻頭言

富山県高等学校教育研究会

情報部会長 辻 直史

携帯電話やインターネットなど、情報関係の機器の進歩には目を見張るものがあります。使わずに過ごすことは不可能の時代になってきています。しかし、それらを用いた新しい社会問題が数多く起こっていることも事実です。人類が自分たちの社会や生活を便利にしようと開発し、社会に貢献すべき機械が、逆に社会に問題を起こしているようです。

これからの社会は情報を持つものと持たないもの、検索できるものとできないものの二極化していくように思っております。教科『情報』はコンピュータの仕組みや使い方を学ぶだけでなく、社会にあふれている情報の、より効果的な使い方や検索方法を知ることにより、生徒がこれから情報社会で生きていくための知識を身につける教科です。しかしそればかりではなく情報化社会に参加する態度、マナーを身に付け、情報モラルの重要性についても教えて考えさせることは重要なことです。

高等学校教育研究会『情報部会』では、研究発表大会で「グループウェアの活用」や「体験学習を通して学ぶ情報教育」などの発表や、本年度参加した、全国大会参加報告などの報告などを行いました。また総会や研究発表大会では、それぞれの学校での取り組みなどを、小グループで話し合い、お互いに有意義な意見交換を行うことができました。

社会自体がどんどん変化し、各個人個人が簡単に情報機器を持ち歩く時代になり、ますます教科情報の役割が大切なものとなって行きます。生徒諸君がより安全で効果的に情報に向き合うことが求められています。少しでも効果的な指導ができますよう研究を深めて行きたいと思います。

終わりにになりましたが、指導助言をいただきました、県立学校課、総合教育センターをはじめとして発表された会員および各先生位に感謝いたしまして、あいさついたします。